

RR-17「三陸沿岸地域における簡易的な観光マーケティング手法の構築」

課題提案者：岩手県政策地域部地域振興室

研究代表者：総合政策学部 金澤悠介

研究チーム員：新田義修（総合政策学部）、滝澤裕司（岩手県政策地域部地域振興室）

<要 旨>

本研究の目的は、平成28年度に岩手県が実施する「観光パラメータ調査」と同程度の精度を持ちながら、100万円程度の低コストで行うことのできる調査方法を構築することである。「観光パラメータ調査」と同程度の精度を持ちつつ、コストを抑える調査を行うためには、調査地点と調査期間を絞り込むことが効率的である。そこで、本研究は、（i）岩手県および国が実施している既存統計を分析することで調査地点を絞り込んだ上で、（ii）絞り込まれた調査地点の月別の観光客数のパターンを精査することでより適切な調査期間を絞り込んだ。その結果、宮古市・大船渡市・久慈市の3都市を対象に、4月から9月にかけて開催される観光イベントをいくつか選定して調査を行なうことが効率的であるという結論が得られた。

1 研究の概要（背景・目的等）

岩手県は、三陸沿岸地域における交流人口の拡大等を目的として、観光客調査のエビデンスをもとにしたマーケティング戦略の策定を目指している。効果的なマーケティング戦略を策定するためには観光客調査を継続的に行う必要があるため、一定の精度を持ちながら、低コストで実施できる調査方法論の確立が必要である。

本研究の目的は、平成28年度に岩手県が実施する「観光パラメータ調査」と同程度の精度を持ちながら、低コストで行うことのできる調査方法を構築することである。「観光パラメータ調査」は、三陸沿岸地域の主要観光地20地点を訪問する観光客300名を対象に4期間行うものである（結果として、調査対象者数は20地点×300名×4期間=24000名となる）。「観光パラメータ調査」と同程度の精度を持ちつつ、コストを抑える調査を行うためには、調査地点と調査期間を絞り込むことが効率的である。

2 研究の内容（方法・経過等）

本研究は、（i）岩手県および国が実施している既存統計を分析することで調査地点を絞り込んだ上で、（ii）絞り込まれた調査地点の月別の観光客数のパターンを精査することでより適切な調査期間を絞り込んだ。

3 これまで得られた研究の成果

3.1 調査地点の選定

「観光パラメータ調査」は岩手県沿岸地域の13自治体（宮古市・大船渡市・久慈市・陸前高田市・釜石市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村・普代村・野田村・洋野町）に所在する観光地を調査地点としている。ここでは、観光客の訪問パターンと観光産業の特徴をもとに13自治体を分類することをつうじて、調査地点の絞り込みを行う。具体的には、以下の統計指標を対象としたクラスター分析によって13自治体を分類した上で、調

査地点として適切な自治体を選定する。

●観光客の訪問パターンについての統計

・観光客の市町村別・月別入り込み数（出典：平成25～27年岩手県観光統計概要）

近年の観光客の訪問パターンを明らかにするため、平成25～27年の3年分の平均値を用いた。これは各年の固有の変動を除去するためである。また、平成28年の統計は台風10号の影響を考慮して使用しなかった。

●自治体の観光産業の特徴についての統計

・人口数（出典：2015年国勢調査）

・就業者に占める観光産業就業者の割合（出典：2015年国勢調査）

「運輸業・郵便業」、「卸売業・小売業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「生活関連サービス業・娯楽業」に就業しているものを観光産業就業者とした。

・就業者に占める第一次産業就業者の割合・第二次産業の割合（出典：2015年国勢調査）

自治体の産業構造の特徴も把握するために、これらの統計指標も含めた。

以上の統計指標をもとに、クラスター分析をしたところ、次の4つのクラスターが抽出された。

表1 クラスター分析の結果

グループⅠ	宮古市・大船渡市・久慈市
グループⅡ	陸前高田市・釜石市
グループⅢ	住田町・山田町・普代村・野田村・洋野町
グループⅣ	岩泉町・田野畑村

各クラスターの特徴を見るために、クラスターごとに統計指標を求めたところ、表2のようになった。

表2 各クラスターの特徴

	1年間の 観光客数の 平均値	沿岸地域を訪れた 観光客に占めるシェア (%)	観光関連産業 就業者割合 (%)
グループⅠ	1,086,534	51%	26%
グループⅡ	329,170	10%	24%
グループⅢ	299,695	24%	21%
グループⅣ	475,626	15%	19%

表2より、グループⅠに属する宮古市・大船渡市・久慈市は、1年間で訪れた観光客数が他のグループに比べ著しく高く、観光関連産業に就業しているものの割合も高く、沿岸地域では観光が優勢な地域といえる。じっさい、これら3つの自治体に訪れた観光客数は沿岸地域を訪れた観光客数の半数に及ぶ。また、これら3つの自治体は地理・交通的に沿岸地域の観光の主要拠点をなす地点であることも考慮に入れば、これら3つの自治体で調査を行うことで、沿岸地域の他の自治体に赴く観光客を捕捉できる可能性が高い。以上の議論から、調査地点として、宮古市・大船渡市・久慈市を選定することが、より効率的であるといえる。

3.2 調査時期の選定

宮古市・大船渡市・久慈市の月別観光入込数は図1のようになった。

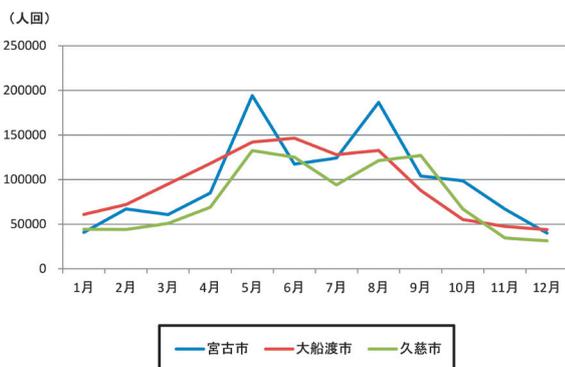


図1 宮古市・大船渡市・久慈市の月別観光入込数

図1より、宮古市・大船渡市・久慈市のいずれにおいても、4月から9月にかけて観光客入込数が多くなっている。したがって、この時期に開催される観光イベントをいくつか選定して調査を行なうことが効率的だと考えられる。

4 結論

本研究は精度が高く低コストで行うことができる観光調査の方法を構築するために、(i) 岩手県および国が実施している既存統計を分析することで調査地点を選定し、(ii) その調査地点の月別の観光客数のパターンを

精査することで適切な調査期間を選定した。その結果、宮古市・大船渡市・久慈市の3都市を対象に、4月から9月にかけて開催される観光イベントをいくつか選定して調査を行なうことが効率的であろうという結論が得られた。